

# 博物館だより



No.150

令和元年5月1日

みやこ町歴史民俗博物館発行  
福岡県京都郡みやこ町豊津1122-13  
TEL 0930-33-4666  
FAX 0930-33-4667

## ◆博物館NEWS

### 「改元」記念特別展

## 「昭和・平成から令和へ」改元と吉田増蔵展

会期：4月29日(祝：昭和の日)～6月16日(日)

当館では、新元号「令和」改元を記念して、「平成」から「令和」への過渡期にあたる「昭和の日」から特別展を開催いたします。

企画展の中では「昭和」の元号及び「平成」即位の天皇陛下の称号・名前を考案した、みやこ町出身の漢学者、吉田増蔵やその兄健作ゆかりの資料を展示します。また新元号「令和」とみやこ町の「意外」な関係と併せて、みやこ町の「万葉の世界」をご紹介します。

なお企画展開催中は子どもから大人まで楽しみながら、元号について学んでもらうため、元号発表の舞台を再現した「歴史的瞬間体験コーナー」を開設します。大型連休を利用して「令和」幕開けの思い出づくりに是非ご来館ください。



▲歴史的瞬間の「なりきり」体験！



▲吉田増蔵

### ●企画展関連事業

(電話による事前申込みが必要です。)

#### (1) 展示関連講演会

「昭和・平成から令和へ」改元と吉田増蔵

講師 井上信隆 (当館学芸員)

日時 5月18日(土) 11:00

場所 みやこ町歴史民俗博物館

(2) 史跡散策バスハイク

「みやこ町で見る、学ぶ「令和」と万葉の世界」

日時 6月2日(日) 10:00

博物館出発

万葉の面影が残る町内の史跡を巡り「令和」の世界を体験します。

参加費 400円(資料保険代を含む)

\*先着30名様まで



## ◆講座・教室・催し物ガイド

### 5月の歴史講座

#### 〔漢詩紀行講座〕

5月4日(土) 9時30分

#### 〔古文書講座〕

5月11日(土) 10時

#### 〔古典かな講座〕★於：中央図書館

5月18日(土) 10時

#### 〔みやこ学講座〕

5月25日(土) 10時

※日程等変更となる場合があります。  
※見学会等は別途ご案内します。

## 友の会定期総会のご案内

本年度の「博物館友の会定期総会」を次のとおり開催いたします。元号が改まって初の総会となります。会員の皆さんは気分も新たにぜひご出席下さい。

日時 5月18日(土) 10時

場所 当館研修室

議事 年間事業計画の審議等

記念講演会 11時

「改元と吉田増蔵」 当館学芸員 (上記「博物館NEWS」参照)

## 博物館友の会で「楽習」を！

博物館友の会は「故郷を楽しく学ぶ」をモットーに見学会や各種イベントを行っています。関心のある方ならどなたでも参加OK。お気軽にお申込みください！

### ♪入会の方法

博物館窓口で登録・会費納入

### ♪年間会費

個人会員 3000円

家族会員 1名2000円

♪お問い合わせ先

博物館 ☎33・4666

## 3月の業務日誌から

3月1日(金) 独立行政法人国際協力機構(JICA)の研修視察で、ミャンマーなど各国の研修生が博物館を訪れました。収蔵施設の見学では、町の「宝」を守るための様々な設備に驚きの様子でした。

3月23日(土)、みやこ学講座で「日露戦争ゆかりの碑石巡り」と題した現地見学会が行われました。近代初の総力戦が残した影響の大きさを、平成の終わりに改めて確認することができました。



▲町内各所の戦役記念碑を巡りました(国分寺境内にて)



▲町の歴史や文化を楽しく学んでいただきました

みやこの歴史発見伝 116  
吉田増蔵(その十)

—新元号と吉田増蔵—

新元号「令和」について

四月一日、平成に次ぐ新元号「令和」が発表されました。この元号で注目されたのが、はじめて「令」の字が用いられたことと併せ、「万葉集」の歌がその典拠(文献などの根拠)となつたことでした。以前、説明させていたように「平成」まで、その出典は漢籍によるものであり、以前から「日本の古典」から出典を求める計画があつたものの実際にはこれまで実現できなかったことを考えると、元号の「典拠」となる領域も広がり、元号考案の在り方にも新たな変革が行われた初の元号と位置付けられます。

この傾向について非常に興味深い反応を示した国が、元号使用の「本家」中国で、「漢籍以外の出典による元号」として報じており、現在使用されなくなつた「元号」に対する「関心」や「期待」のようなものを改めて垣間見ることができました。この傾向は、かつて元号使用国

であつたアジア各国でもみられ、これらの国々では「元号」が人々の生活や社会に深く浸透していることを再認識することができました。



▲京築かるた(福岡県企画・地域振興部 広域地域振興課 提供)

改元と吉田増蔵

今回の元号発表は、これまで最も国民の注目を集めたといわれており、元号発表の前後に各種メディアやインターネット等で様々な情報や意見が飛び交うなどその関心の高さがうかがえました。このような状況の中で、当館にも吉田増蔵に関する問い合わせが相次いで寄せられ新聞、テレビ等でその業績が紹介されました。新元号の典拠が「万葉集」であつたこともあり、漢籍出典の代表的存在であつた

吉田増蔵を取材対象とした理由として、「吉田増蔵は、和、漢を問わず、元号そのものに影響力のあつた人物で、森鷗外の意思を引き継ぐ形で大成した『元号考』は「令和」以降の元号考案作業でも欠かすことのできない資料であると誰もが認めているところでは、これからも改元の度に彼の名前が取り上げられることでしょう。」という関係者の言葉が、改めて増蔵の業績の大きさを物語っているように感じます。

顕彰活動と調査研究

吉田増蔵の業績等については、「平成」へ改元された際、「昭和」の元号とともに「新しく即



▲吉田学軒顕彰碑(みやこ町勝山)

位する天皇陛下の称号・名前の創案者」であることに注目が集まり、マスコミ等による詳しい取材の結果が新聞・雑誌等で紹介されています。その後、「勝山町史」編纂事業に伴い、初めて本格的な調査に着手した結果、関係する資料が地元で良好な形で保存されていることが確認できました。合併後は、顕彰会が結成され、平成二十四年には故郷の勝山に顕彰碑が建立されています。その後も兄の健作とともに先人顕彰活動の対象人物として、調査・研究が継続されています。また近年、京築地区にみられる特産品や文化財などの地域資源を楽しく学ぶことを目的として「京築かるた」が作成されていますが、この中の一枚に吉田増蔵が紹介されており、毎年町内外の小学生を対象に行われるカルタ取り大会等でもから大人までその名前や業績が広く知られる人物となりました。

「令和」とみやこ町

今回、決定した元号「令和」の典拠となつた漢詩が九州、大宰府で作られたことも大きく報道され、「大宰府」や「万葉集」の映像や写真を目にする機会が増えました。新元号とは無関係

にも思える「みやこ町」ですが、古代の政治的中心地であつた畿内から九州に越く際、その経路拠点(要所)が、国府(現在の「県庁」にあたる施設が設置された都市)が置かれたみやこ町であり、大宰府へ向かうルート上に大規模に整備された道路跡(官道)が発掘調査等で検出されています。「令和」典拠の作者であるおもしろい人も国分寺をはじめとした古代の史跡を目の当たりにした可能性も垣間見ることができ、その詳細が確認できれば、吉田増蔵の業績と関連した「昭和」「平成」とともに「令和」ゆかりの町として、新たな発見が期待できそうです。

【井上信隆】



▲「令和」典拠のイメージ(みやこ町三重塔まつりにて)